

昭和五十八年三月招集

第一回館山市議定会定例会會議錄

館山市議會



目 次

○第一号（三月四日）

開 会	六
議長の報告	六
議案の配付	六
会議録署名議員の指名	六
会期の決定	七
会議日程の決定	七
議案第三号ノ議案第二十三号（施政方針、提案理由の説明）	七
延 会	一八
本日の会議に付した事件	一八
○第二号（三月十日）	
開 議	二一
行政一般通告質問	二一
栗原 一雄君の質問、当局の応答	二一
黒川 平治君の質問、当局の応答	二六
五十嵐 昇君の質問、当局の応答	三〇
石井 武敏君の質問、当局の応答	三四
神田 守隆君の質問、当局の応答	四五
流山源次郎君の質問、当局の応答	五二
石井 輝久君の質問、当局の応答	五九
会議日程の変更	七〇
散 会	七〇
本日の会議に付した事件	七〇

○第三号（三月十四日）

開 議	七四
議案第十一号ノ議案第十八号	七四
石井武敏君の質疑、当局の応答	七四
神田守隆君の質疑、当局の応答	七八
委員会付託	八一
議案第十九号ノ議案第二十三号	八一
石井武敏君の質疑、当局の応答	八二
神田守隆君の質疑、当局の応答	八八
安西益男君の質疑、当局の応答	九三
委員会付託	九五
請願第 一号	九五
説明	九六
委員会付託	九六
延 会	九六
本日の会議に付した事件	九六
○第四号（三月十五日）	
開 議	九九
議案第三号ノ議案第十号	九九
神田守隆君の質疑、当局の応答	一〇〇
石井武敏君の質疑、当局の応答	一〇五
予算審査特別委員会の設置、付託、委員の選任	一一六
会議日程の変更	一一六
延 会	一一六
本日の会議に付した事件	一一七

○第五号(三月二十六日)

開 議	――	一二二
議案の配付	――	一二二
議案第十一号、議案第十九号	――	一二二
総務委員会委員長報告	――	一二二
神田守隆君の討論	――	一二四
採決	――	一二四
議案第十二号、議案第十四号、議案第二十号、議案第二十一号	――	一二五
文教民生委員会委員長報告	――	一二五
神田守隆君の討論	――	一二六
採決	――	一二六
議案第十五号、議案第十八号、議案第二十二号、議案第二十三号	――	一二七
建設経済委員会委員長報告	――	一二七
神田守隆君の討論	――	一二八
採決	――	一二八
継続審査について	――	一二九
陳情第二号	――	一二九
文教民生委員会委員長報告	――	一二九
採決	――	一三〇
請願第五号	――	一三〇
建設経済委員会委員長報告	――	一三〇
栗原一雄君の討論	――	一三〇
松下正己君の討論	――	一三一

神田守隆君の討論	――	一三一
動議	――	一三二
採決	――	一三三
議案第三号、議案第十号	――	一三三
予算審査特別委員会委員長報告	――	一三三
神田守隆君の討論	――	一三七
採決	――	一三八
議案第二十四号	――	一三八
説明	――	一三八
委員会付託の省略	――	一三九
採決	――	一三九
議案第二十五号	――	一三九
説明	――	一三九
委員会付託の省略	――	一三九
採決	――	一四〇
閉 会	――	一四〇
本日の会議に付した事件	――	一四〇

第一回館山市議定会定例会會議録（第一号）



一、昭和五十八年三月四日(金曜日)午前十時  
館山市役所議場

二、出席議員 二十四名

一番 神田 守隆	二番 石井 謀
四番 横溝 功	五番 福原 勤
七番 古賀 礼四郎	八番 石井 昌治
九番 松下 正己	一番 林 豊
一二番 栗原 一雄	一三番 近藤 好雄
一四番 渡辺 昭夫	一五番 伊藤 幸太郎
一七番 黒川 平治	一八番 流山 源次郎
一九番 石井 輝久	二〇番 石井 武敏
二一番 吉田 勇治郎	二二番 藤田 益治
二四番 和田 一郎	二五番 五十嵐 昇
二六番 伊賀 多朗	二七番 石井 正
二八番 安澤 徳順	二九番 安西 益男
欠席議員 二名	
二三番 菊井 敏博	三〇番 山口 康

三、出席説明員

市長 半澤 良一	助役 小倉 澄男
収入役 太田 博雄	市長公室長 斎藤 武男
総務部長 鶴岡 卓樹	民生部長 鈴木 力
経済部長 山田 俊康	水道課長 吉田 清一
教育委員長 関 和雄	教育委員長 安田 豊作
選挙管理委員会 委員長 加藤 利雄	選挙管理委員会 事務局長 蜂谷 達二
監査委員 鈴木 重司	監査事務局長 飯田 忠男

農業委員会 斎藤 明 事務局長 庄司 徹

二、出席事務局職員

事務局長 高尾 豊  
書記 兵藤 恭一 書 記 鈴木 哲  
書記 石井 一夫 書 記 嶋田 範夫

一、議事日程(第一号)

昭和五十八年三月四日午前十時開議

日程第一 会議録署名議員の指名

日程第二 会期の決定

日程第三 會議日程の決定

議案第 三 号	昭和五十八年度館山市一般会計予算
議案第 四 号	昭和五十八年度館山市国民健康保険特別会計予算
議案第 五 号	昭和五十八年度館山市老人保健特別会計予算
議案第 六 号	昭和五十八年度館山市と畜場特別会計予算
議案第 七 号	昭和五十八年度館山市ユースホステル特別会計予算
議案第 八 号	昭和五十八年度館山市学童災害共済事業特別会計予算
議案第 九 号	昭和五十八年度館山市水道事業特別会計予算
議案第 十 号	昭和五十八年度館山市国民宿舍事業特別会計予算

議案第 十一号	館山市職員給与条例の一部を改正する条例の制定について
議案第 十二号	館山市立幼稚園設置条例の一部を改正する条例の制定について
議案第 十三号	館山市、富浦町及び三芳村学校給食組合規約の一部を改正する規約の制定に関する協議について
議案第 十四号	障害に関する用語の改善に伴う関係条例の整理に関する条例の制定について
議案第 十五号	館山市道路占用料徴収条例等の一部を改正する条例の制定について
議案第 十六号	市道路線の廃止について
議案第 十七号	市道路線の認定について
議案第 十八号	館山市国民宿舍利用料徴収条例の一部を改正する条例の制定について
議案第 十九号	昭和五十七年度館山市一般会計補正予算（第四号）
議案第 二十号	昭和五十七年度館山市国民健康保険特別会計補正予算（第二号）
議案第 二十一号	昭和五十七年度館山市と畜場特別会計補正予算（第一号）
議案第 二十二号	昭和五十七年度館山市水道事業特別会計補正予算（第三号）
議案第 二十三号	昭和五十七年度館山市国民宿舍事業

特別会計補正予算（第二号）

開 会 午前十時二分開会

○議長（林 豊君） 本日の出席議員数二十四名、これより昭和五十八年第一回市議会定例会を開会し、直ちに本日の会議を開きます。

議長の報告

○議長（林 豊君） 本定例会議案審査のため、地方自治法第二百一十一条の規定による出席要求に対し、お手元に配付のとおり出席報告がありましたので、御了承願います。

なお、監査委員から十二月及び一月実施の監査の結果が報告されております。それぞれお手元に配付の印刷書により御了承願います。

議案の配付

○議長（林 豊君） ただいま市長から議案並びに説明書の送付がありました。

議案並びに説明書を配付いたさせます。配付漏れはありませんか。——配付漏れなしと認めます。

本日の議事はお手元に配付の日程表により行います。

会議録署名議員の指名

○議長（林 豊君） 日程第一、会議録署名議員の指名を行います。四番議員横溝 功君、二七番議員石井 正君、以上両君を指名



いたします。

## 会期の決定

○議長（林 豊君） 日程第二、会期の決定を行います。

本定例会の会期につき、議会運営協議会の意見は本三月四日から三月二十六日までの二十三日間ということでありま。

お諮りいたします。会期を二十三日間と定めますことに御異議ありませんか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

○議長（林 豊君） 御異議なしと認めます。よって会期は三月四日から三月二十六日までの二十三日間と決定いたしました。

## 会議日程の決定

○議長（林 豊君） 日程第三、会議日程の決定を行います。

お諮りいたします。お手元に配付いたしました会議日程表は本定例会の大体の日取り予定であります。議会運営協議会の意見により作成いたしました。

本定例会をおおむねこの会議日程表により運びますとともに、その間議案の追加または議事の都合等によりまして、その都度これを改めることにして大体このようにいたしたいと思います。これに御異議ありませんか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

○議長（林 豊君） 御異議なしと認めます。よって会議日程は決定いたしました。

## 議案の上程

○議長（林 豊君） 日程第四、議案第三号乃至議案第二十三号を一括して議題とし、これより昭和五十八年度施政方針並びに各議案の提案理由の説明を求めます。

### 施政方針並びに提案理由の説明

（市長半澤良一君登壇）

○市長（半澤良一君） 本日、ここに三月定例会市議会を招集し、昭和五十八年度一般会計及び特別会計の予算案並びに諸議案につきまして御審議をお願いすることになりましたが、開会にあたり新年度の市政運営に関する所信を申し述べ、議員各位の御理解と御協力を賜りたいと存じます。

御承知のとおり、低成長を続けるわが国経済は、世界的な景気停滞の状況下、貿易摩擦拡大による輸出の鈍化傾向、国内需要の低迷等により依然として楽観を許されない情勢でございます。また、多額の赤字国債に悩む国の逼迫した財政は、その再建が緊要の政策課題となっており、地方においても五十八年度は近年にない厳しい財政運営が予想されております。

一方、人口の高齢化、価値観の多様化等社会情勢の変化は、より高度な施策選択の必要性を生み、地方公共団体の役割はますます重要性を加えており、地方分権の推進が国、地方を通ずる行財政の簡素合理化とともに強く求められる状況となっております。

このような時代背景の中で、本県の将来を展望するとき、成田空港開港を契機として名実ともに国際県としてもその地位を築きつつあり、また、これを軸として県構想による千葉新産業三角構

想が提唱されるなど、文字どおり大きな飛躍が期待されます。

さらに、本構想の大きな核となります東京湾横断道路も国の第九次道路整備五カ年計画の中で建設に着手するとの方向が示され、これを受けての国道四〇九号、四一〇号、一二七号バイパスの建設等、二十一世紀に向けての輝かしい未来の展望が示されるに至っております。

このことは、本県はもとより過疎問題を抱える南房総にも力強い活力をもたらすとともに、首都圏におけるレクリエーションとしての利便性をより高め、また、豊かな自然に溶け込んだ定住圏として熟度を高め、さらには生鮮食料品等の供給基地としての地位が向上されることが期待されます。

このような背景を踏まえ、本市といたしましても長期的な視野に立って上位計画との整合性を図りながら時代の流れに対応した自立的な地域活力を生み出す諸施策を推進し、新しい時代にふさわしい都市づくりが必要であると考えております。

私は、市長就任以来、一貫して人間尊重、市民生活優先を市政の基本理念として、この地で生まれ、育ち、生きていく喜びと誇りを感じ得るような明るく豊かな香り高い文化福祉都市の実現を理想に、学校、水道、衛生施設など各種生活基盤の整備充実を図る一方、将来にわたる財政の健全性確保のため、行財政運営の合理化を推進し、さらに、これからのまちづくりを共に担うコミュニティづくりの力を注ぎ、行政の守備範囲の見直しを図る等、ハード、ソフト両面にわたりその充実に努力を重ねてまいりました。いま心新たに第三期目の初年度を迎えるにあたり、本市が活力に満ちた魅力ある都市として発展するためには、安房郡市における

中核都市としての機能向上を図るとともに、恵まれた自然を十分に生かした観光レクリエーション地として整備充実することが重要であると考えます。

このため、最大課題である館山駅周辺及び国道をはじめ都市計画街路等、画期的な都市近代化の推進を私の責務といたしまして、市民各位の積極的な市政参加を得て、豊かな郷土づくりに努力してまいりる所存でございます。

昭和五十八年度は、住みよい環境づくり、福祉社会づくり、教育文化の環境づくり、産業の基盤づくりを主要施策とし、コミュニティ施設、清掃センターの継続事業を引き続き実施するとともに、公園、道路整備等、都市形態の質的充実を重点に、健全財政の堅持を図りながら予算を編成いたしました。

以下、主要施策の概要につきまして順次御説明いたします。

第一は、住みよい環境づくりでございますが、豊かな市民生活を営むためには、利便性、快適性の確保が基本的な要件であり、年次の事業の施行によりその増進に努めているところでございます。

まず、市の最重点施策として進めております館山駅周辺市街地整備でございますが、西口地区にありましては、本年度はさらに調査を進め、事業計画の作成を行いますが、しかし、本事業の推進に關しましては、何よりも地元との緊密な連携が必要でございまして、このため協議会を設置してまいりたいと考えております。

また、東口地区にありましては、地元商業者による研究会が市街地再開発事業を含む商業近代化を目指し前年度発足いたしました。

たが、本市といたしましても文字どおり新しい街づくりに積極的に参画し、その実現に努力してまいりる所存でございます。

清掃センターにつきましては、昭和五十九年夏を目途に鋭意建設中でございます。これが完成いたしますと、衛生センターと相まってごみ、し尿処理の基本的な課題が一举に解決することとなり、市の目標でございます住みよい環境づくりに大きく前進するものと確信しております。

次に、年次的に整備を進めている道路関係でございますが、本年度は重点的に改良、舗装、橋梁のかけかえなどを実施するとともに、本市の交通体系上きわめて重要な国道一二七号バイパス、都市計画街路事業につきましても、早期実現に向け関係者の御理解、御協力を得ながら強力に推進してまいります。

下水路関係につきましては、八幡都市下水路整備のほか、懸案となっておりました北条中央下水路、南町下水路につきましても前年度の調査に基づき年次的な整備を実施してまいります。

次に、公園整備でございますが、城山公園につきましては、博物館の建設が終了しますので、さらに幅広い利用に供するため、本年度から各種公園施設の整備を実施し、総合都市公園としての機能の拡充に努めてまいります。

県立館山運動公園は、前年度の多目的グラウンドに引き続き本年度は野球場の建設が予定されておりますが、南房総におけるスポーツの拠点として今後とも早期完成を働きかけていく所存でございます。

また、その他の公園整備につきましても、それぞれの公園の持つ性格や規模等を勘案し、自然環境の保全に配慮しながら計画的

に進めてまいります。

防災対策につきましては、大規模地震対策を重点に、資器材の整備、自主防災組織づくり等防災体制の確立を推進しておりますが、本年度は災害時において復旧が最も困難とされる飲料水の確保について対処すべく、耐震性井戸付貯水装置及び災害用浄水機等を設置してまいります。

上水道につきましては、現在約八五％の普及率を有しておりますが、都市化の進行に伴う水需要の増大、未給水地域の解消等、将来に向けての対応を図るため、本年度は上水道第三次拡張事業について基本計画を策定してまいりる所存でございます。

また、今後浄水場の省力化、配管の整備等を推進し、企業の減量経営を図ってまいりる所存でございます。

次に、第二は、福祉社会づくりでございます。

福祉社会づくりの目標は、すべての市民が生涯にわたり生きがいのある生活を営めることであると存じます。

このため、福祉は単に公的扶助のみにとどまらず、自立を助長し、さらに、コミュニティ活動やボランティア活動を中心として、地域の方々が共に支え合う心の通った地域ぐるみ福祉の推進等、総合的に対処していかなければならないと存じます。

本市のコミュニティづくりにつきましては、現在、各地区において多様な地域活動が展開されるに至っており、理想のコミュニティ形成に向かい着実に歩を進めております。

一方、本年十一月にはコミュニティ推進の核となるコミュニティ施設が完成いたしますので、これを媒体として市民と行政が一体となった、より住みよい地域社会づくりを積極的に進めてまい

る所存でございます。

福祉対策につきましては、社会的、経済的に弱い立場にある方々に對する在宅福祉施策を重点に進めてまいりたいと考えております。特に、ねたきり老人並びに心身障害者に対する施策としては、家庭奉仕員制度の充実や老人保健法の施行に加えて本市は医療費助成制度を引き続き実施しているところでございますが、さらに、本年度は老人福祉センターの整備及び清掃センターの余熱を利用した老人福祉センターB型の建設を計画しております。

次に、健康づくり対策でございますが、本年度は市民の健康づくりの拠点となります保健センターが完成し、業務が開始されますので、本機能の充実を図り、健康の保持、疾病の予防等について保健事業を総合的に実施してまいります。特に、住民の自己健康管理意識の高揚を図りながら、成人病予防を重点とした各種検診の拡充と、さらに老人家庭及び四カ月児を主とした乳幼児の訪問指導など多様な対人保健サービスに努めてまいります。

次に、第三は、教育、文化の環境づくりでございます。

学校教育は、次代を担う子供たちの人間形成の上で重要な基礎をなすものであり、教育内容の充実、教育環境の整備、健康体力の増強を図り、基本施設の重点的かつ優先的整備を実施し、近代的かつ良好な教育環境を確保してまいります。

本年度は、館山幼稚園を防衛施設庁の補助により建設するとともに北条小学校、房南中学校の改修等を実施し、教育環境の整備に努めてまいります。

次に、社会教育施策について申し上げます。

本年度は、コミュニティ施設として中央公民館及び北条地区学

習等供用施設が開館いたします。また、豊津地区学習等供用施設、西岬西公民館につきましても建設を進めてまいります。これら市民の主體的な学習の場である施設の充実と相まって幅広い社会教育活動を展開してまいりる所存でございます。

芸術、文化の振興につきましては、里見氏関連資料を中心とする南総の文化遺産を保存、保護し、継承する博物館が建設され、文字どおり安房の歴史の殿堂が完成いたしますので、これが開館に向け資料の充実と努めるとともに、彫刻の径を設置し、優れた芸術を提供する等市民文化の高揚を図ってまいります。

社会体育施策につきましては、親しめるスポーツの場を広げることを重点に、館山若潮マラソン大会をはじめ、各種スポーツ大会や教室の拡充を図る一方、新規に西岬市民体育館を建設し、市民の体力づくりを推進してまいります。

次に、第四は、産業の基盤づくりでございます。

地域振興の基盤となる地場産業の育成につきましては、市勢発展の原動力となるものであり、本市域の特性を生かした諸施策を進め、その振興に努めてまいります。

農業につきましては、水田利用再編対策として転作物物の種子購入に対する補助、展示ほ設置事業等を実施し、転作定着条件の整備を図り、農産物需要の動向に即応できる地域の特性を生かした生産体制づくりを推進してまいります。

また、生産基盤の整備としましては、九重地区の団体営ほ場整備が実施されるほか、公共性の高い農免道路等農道の整備及び小規模土地改良事業による排水路等の整備を促進してまいります。

このほか、水田裏作による飼料作物生産を推進し、自給飼料確

保による酪農者の受益の向上を図ってまいります。

水産業につきましては、沿岸域における水産資源の増殖を目的に魚介類の種苗放流や魚礁の設置等水産物培養環境を整備するとともに、漁業生産基地であり、かつ流通の拠点でもある漁港及び関連施設の整備を進め、漁業経営の安定と水産業の振興を図ってまいります。

商業につきましては、内外の大変厳しい環境のもと、地元商業者による近代化のための研究会が設立されており、現在、県モデル商店街の指定に関する作業が進められております。本市といえども駅前整備計画との整合を図りつつ、商工会議所等関係団体との連携を密にとりながら魅力ある商店街の形成に向け努力してまいります。

地元就業機会の拡大につきましては、地方中小都市の抱える共通の課題でございます。ふるさと産品育成事業は、これを媒体として産業の活性化を図ろうとするものであり、このため地元資源や技術を生かした創意に富む新製品の開発等につき調査を進めてまいります。

また、本年は勤労青少年ホームが完成いたしますが、複合施設の特徴を生かした有機的な運営により、勤労者の福祉増進に努めてまいります。

観光振興につきましては、本市の経済振興の上からも重要であり基本的課題である道路交通網の整備を推進する一方、受け入れ体制の整備及び観光客誘致のための各種事業を推進してまいります。

また、地域ぐるみの観光地づくりを目的に推進しております観光振興事業につきましては、本年度から事業計画に基づき民間活

力の積極的な導入を図りながら新たな観光の拠点としての館山スポーツの里として魅力ある観光地づくりに努めてまいります。

以上の施策を中心といたしまして、昭和五十八年度一般会計予算の編成を行いました結果、歳入歳出予算の総額は百二億五千三百三十万円で、前年度当初予算に対し十億二千二百八十万余円の増額となり、一一・一％の伸び率となっております。

まず、歳入予算の内容についてでございますが、歳入の柱であります市税につきましては、経済情勢と税制度の改正を勘案いたしまして三十八億三千三十万を計上、前年度対比二億千六百五十万、六％の増で、構成比は三七・二％でございます。このほか、地方譲与税一億千七百八十万、娯楽施設利用税交付金五千四百三十万、自動車取得税交付金八千七百三十万、国有提供施設等所在市町村助成交付金六千八百万、地方交付税は十四億二千二百万で、構成比一三・九％、交通安全対策特別交付金八百万、分担金及び負担金二億五千四百三十万、使料及び手数料二億六千七百四十万、国庫支出金は十四億三千五百九十万、六・八％の増となり、構成比は一四％、県支出金四億八千三百八十万、財産収入七千五百三十万、寄附金七百三十万、繰入金二億五千万、繰越金一億五千万、諸収入一億七千八百四十万、市債は十五億八千二百七十万で、構成比は一五・四％となり、それぞれ精査の上、計上いたしました。

これら歳入のうち、地方交付税につきましては、国税三税の減収見込み等に伴う交付税総額の減少、算定方法の変更により前年度に比較して減額措置される見通してございますので、八・九％

減額いたしました。また、分担金及び負担金につきましては、那古、館野、九重地区におけるほ場整備事業に係る幹線農道整備事業分担金一億三千六百九十余円を計上し、市債につきましては、国で示した五十八年度地方財政計画の上で、地方公共団体の財政収支は二兆九千九百億円の財源不足が見込まれ、これらの財源対策の方法として財源対策債の増発が予定されており、増高する公債費による財政の硬直化を考慮いたしまして、極力政府関係資金による市債を予定し、計上いたしました。

また、財政状況のきわめて厳しい中で清掃センター建設事業、コミュニティ施設建設事業等各般の施策を推進するため、財政調整基金を二億五千万円取りくずし、弾力的な運営を図ることといたしました。

国、県支出金につきましては、行政改革の影響、公共事業費の抑制措置などを配慮いたしまして、関係機関と緊密な連絡、情報の収集を行い、計上いたしました。そのほかにつきましては、前年度の実績、地方財政計画などを参考として計上いたしましたものとございます。

次に、歳出予算の内容について申し上げます。

まず、性質別の内容についてでございますが、人件費二十五億五千七百八十余円、構成比二四・九％、物件費十億九千八百五十万余円、構成比一〇・七％、扶助費九億五千四百三十万余円、構成比九・三％、補助費等七億二千七百七十余円、構成比七・一％、普通建設事業費三十五億四千七百六十万余円、構成比三四・六％となりますが、特に地域社会資本の充実を図るため、投資的経費の拡大に配慮いたしました。公債費は九億千二百二十万余円

で構成比八・九％、その他四億五千五百九十余円となっております。

以下、目的別内容について各款別にその概要を申し上げます。

第一款議会費は、議会運営に要する経費として一億六千五百八十万円、前年度対比九百万余円の増となっております。

第二款総務費は、コミュニティ施設建設費として、二カ年継続事業の最終年度分五億千五百五十万余円を計上するとともに、一般管理費、文書広報費、企画費、防災、交通、防犯関係費、徴税費、参議院議員選挙費、県議会議員選挙費、市議会議員選挙費等総額で十五億七千六百四十万余円、前年度対比一億四千九百六十万余円、一〇・五％の増、構成比は一五・四％となっております。この増額の主な理由といたしましては、コミュニティ施設建設費及び耐震性井戸貯水装置設置事業費の増によるものでございます。

第三款民生費は、清掃センター隣接地に建設を予定する老人福祉センター建設費等老人福祉費、福祉作業所運営費、地域ぐるみ福祉活動費等社会福祉費、児童福祉費及び生活保護費で十五億二千四百二十万余円、前年度対比一億七千九百八十余円の減、構成比は一四・九％でございます。この減額の主な理由といたしましては、本年二月から老人保健法の施行に伴い、老人医療関係経費の大部分を老人保健特別会計に計上、執行することになったものでございます。

第四款衛生費は、清掃センター建設費として三カ年継続事業の第二年度分八億五千五百万円を計上するとともに、国の繰り出し基準等に基づく水道事業特別会計への繰出金として一億九百八十余円を計上し、乳幼児医療給付費、市民の健康管理と老人保健

を推進するための各種予防接種、結核、がんの検診等事業費、し尿及びじん芥の両処理施設の維持管理費等総額で十六億九千二百五十万余円、前年度対比七億五千二百五十万余円、八〇・一%の増、構成比は一六・五%となっております。この増額の主な理由といたしましては、清掃センター建設費、旧藤原処理場の廃止に伴う撤去工事費の増によるものでございます。

第五款労働費は、完成予定の勤労青少年ホームの備品購入費、勤労者厚生預託金、勤労者団体補助金等、勤労者の福利厚生を増進を図るための経費として千百九十余万円を計上いたしました。

第六款農林水産業費は、農業費として山間地域果樹生産省力化推進事業、小規模土地改良事業等の投資的経費に対しての補助金を計上するとともに、前年度追加でお願いいたしました幹線農道整備事業費を、また引き続き実施を予定する農免道路整備事業費、農業用施設等補修用材料費等を計上いたしました。

水産業費といたしましては、流通等改善施設整備事業、増養殖造成改良事業等の各事業主体に対する補助金を、また、見物漁港伊戸漁港をはじめ、市管理漁港整備費及び県営漁港整備事業負担金等、漁港施設の近代化と育てる漁業を推進するための経費を計上いたしました。農林水産業費総額で五億七千八百八十余円、前年度対比九千六百六十万円、一九・一%の増となっております。この増額の主な理由といたしましては、農業費における農道整備事業の増によるものでございます。

第七款商工費は、ふるさと産品育成事業費、中小企業融資預託金等を計上いたしました。また、観光費につきましては、観光振興実施計画に基づき新たな観光拠点としての館山スポーツの里づ

くりの経費として九千八百九十万円、このほか海水浴場の施設整備等の経費を計上いたしました。商工費総額二億三千四十万余円、前年度対比五千九百九十余円、三五・二%の増となっております。

第八款土木費は、館山運動公園整備事業負担金のほか道路新設改良費、河川排水路整備費、港湾整備費、城山公園用地購入費、都市計画街路用地購入費等で総額十三億八千五百三十万余円、前年度対比一億八千五十万余円、一五%の増、構成比一三・五%となっております。この増額の主な理由といたしましては、本年度も引き続き生活環境の整備を推進するため、道路橋梁整備費で一億千五百二十万余円、都市下水路費で七千七百二十万余円の増額をしたことによるものでございます。

第九款消防費は、防火水槽、詰所建設事業費、消防自動車購入費など、消防施設の整備を図るとともに、消防団関係経費及び広域消防に係る負担金等で総額三億三千七百七十余円、前年度対比三百六十万余円の増となっております。

第十款教育費につきましては、義務教育施設の整備を重点に、各年度におきましてその時に対応する体制の充実を図ってまいりましたが、今年度におきましては、学習分析システムの導入等教育効果の向上を図る措置を講ずるとともに、施設の維持管理に要する経費を、幼稚園費では館山幼稚園園舎防音改築事業費を計上いたしました。社会教育費では、豊津地区学習等供用施設建設事業費と五十七年度債務負担行為の城山公園彫刻の径彫刻制作事業費のほか、各種文化講座の開催、中央公民館と北条地区学習等供用施設に係る備品購入費、図書館図書充実、博物館本館外構工

事費及び館内整備等の経費を、また、保健体育費では、西岬市民体育館建設事業費と、参加者の増加により年々盛大になっております第四回若潮マラソン大会経費のほか、社会体育の振興と社会体育施設の維持管理に必要な経費等を計上いたしました。教育費総額で十七億四千八百三十万余円、前年度対比一億七千九十万円の減、構成比は一七・一〇となりますが、この減額の理由といたしましては、義務教育施設建設費と博物館本館建設費の減によるものでございます。

第十一款災害復旧費は、土木施設災害復旧費等で千四百四十万余円、前年度対比千四百九十余円の減となっております。この減額の理由といたしましては、水産施設災害復旧事業費の減によるものでございます。

第十二款公債費は、九億千四百四十万余円で前年度対比六千八百六十万余円の増、構成比八・九〇、第十三款諸支出金は、六千五百九十余円、第十四款予備費は、前年度同額の二千万円をそれぞれ計上いたしました。

以上で、一般会計当初予算に計上いたしました内容の概要について申し上げますが、引き続き予想される厳しい財政状況下ではあります。特別交付税、前年度繰越金等につきましては、当初予算でできなかった事務事業等、また職員の給与改定の見込みといたしまして、予算計上額が一分相当額でございますので、給与改定率がこれを上回った場合等、今後の追加財政需要に充てたいと考えております。

次に、継続費といたしましては、コミュニティ施設建設費、清掃センター建設費について設定し、債務負担行為といたしまして

は、館山市農業協同組合が農道整備資金として農林漁業金融公庫からの借入金に対する償還金補助並びに館山市西岬西公民館建設工事請負費及び監理委託料について設定いたしました。

地方債といたしましては、コミュニティ施設建設事業のほか十五件、また、歳計現金の一時不足に備えて一時借入金の最高限度額を十億円と定めることといたしました。

以上が議案第三号の概要でございますが、次に、議案第四号から順次その概要を申し上げます。

まず、議案第四号昭和五十八年度館山市国民健康保険特別会計予算について申し上げます。

国民健康保険事業につきましては、老人保健法の制定に伴い、前年度より老人医療費に係る保険給付費が減少するものとの判断により歳入歳出それぞれ十九億七千五百三十万余円を計上いたしました。国民健康保険税につきましては、特定財源の把握を行って上で積算しておりますが、本算定までには流動的な要素もございますので、今後十分な検討を加え、住民の負担軽減を図る考えであります。

次に、議案第五号昭和五十八年度館山市老人保健特別会計予算でございますが、老人医療の受診率等を勘案いたしました。歳入歳出それぞれ十七億二千四十万余円を計上いたしました。

次に、議案第六号昭和五十八年度館山市と畜場特別会計予算でございますが、歳入歳出それぞれ千八百四十万余円を計上いたしました。と殺頭数の減少に伴いまして独立採算による運営が困難と思われるので、一般会計から三百七十万円の繰入金を予定し、計上いたしました。



次に、議案第七号昭和五十八年度館山市ユースホテル特別会計予算でございますが、歳入歳出それぞれ二千四百四十万を計上いたしました。

次に、議案第八号昭和五十八年度館山市学童災害共済事業特別会計予算でございますが、歳入歳出それぞれ二百四十万を計上いたしました。

次に、議案第九号昭和五十八年度館山市水道事業特別会計予算でございますが、収益的収入につきましては、水道料金及び一般会計からの補助金等で五億五千二百三十万、資本的収入として一般会計からの出資金等で八千二百万、これに対し収益的支出として、営業費用、企業債利息等で六億七十万、資本的支出として水道施設等工事費、企業債償還金等で一億四千六十万、万をそれぞれ計上いたしました。

本年度事業の主なもの、館山市水道第三次拡張事業認可申請書作成業務等の委託及び配水管布設工事等の改良工事でございます。

次に、議案第十号昭和五十八年度館山市国民宿舎事業特別会計予算でございますが、収益的収入につきましては、宿泊料金等で一億九千七百四十万、収益的支出として営業費用、企業債利息等で一億九千七百四十万、資本的支出として千四百四十万、支出合計二億千九百九十万を計上いたしました。

以上、各会計の昭和五十八年度予算の概要につきまして御説明いたしました。一般会計及び特別会計予算規模は百四十九億三千八百六十万を計上いたします。

次に、一般議案について、その提案理由を申し上げます。

まず、議案第十一号館山市職員給与条例の一部を改正する条例の制定についてでございますが、職員が危険、不快等その他特殊な業務に従事する場合に特殊勤務手当を支給しておりますが、今回、支給額及び対象業務範囲について全般的に見直しを行ったところ、現行支給額については県下各市の平均水準より低位にあり、ある程度の引き上げが適当と考えられ、また、支給対象となる範囲についても業務内容から一部配慮を行い、改正しようとするものでございます。

次に、議案第十二号館山市立幼稚園設置条例の一部を改正する条例の制定についてでございますが、館山市立西岬幼稚園の位置の変更をお願いするものでございます。現在、同幼稚園は旧東小学校内にございますが、これを館山市立西岬小学校内にしようとするものでございます。

次に、議案第十三号館山市、富浦町及び三芳村学校給食組合規約の一部を改正する規約の制定に関する協議についてでございますが、改正の主なもの、執行機関の組織中、副管理者及び収入役の選任についてそれぞれ充て職とし、また、同組合教育委員会委員の任期及び監査委員の欠員期間中における職務権限について規定を設けまして明確化を図ろうとするものでございます。

次に、議案第十四号障害に関する用語の改善に伴う関係条例の整理に関する条例の制定についてでございますが、障害に関する条例上の用語のうち不適当なものにつきまして国及び県が改正いたしましたので、本市におきましても同様に改正いたしたく関係条例を一括して一部改正する条例を制定しようとするものでございます。

次に、議案第十五号館山市道路占用料徴収条例等の一部を改正する条例の制定についてでございますが、国及び県の占用料、使用料等に準じまして館山市道路占用料徴収条例、館山市都市公園条例及び館山市漁港管理条例をそれぞれ改正しようとするものでございます。

次に、議案第十六号市道路線の廃止についてでございますが、道路法第十条第一項の規定に基づき、市道見物五号線を廃止しようとするものでございます。

次に、議案第十七号市道路線の認定についてでございますが、道路法第八条第二項の規定に基づき、見物五号線及び波左間六号線を市道として認定しようとするものでございます。

次に、議案第十八号館山市国民宿舎利用料徴収条例の一部を改正する条例の制定についてでございますが、このたび環境庁から諸物価の上昇等に対応し、国民宿舎の健全な運営とサービスを確保するため利用料基準を改定する旨の通知がございましたので、本市におきましてもこれに準じまして利用料を改定しようとするものでございます。

次に、議案第十九号昭和五十七年度館山市一般会計補正予算（第四号）でございますが、歳入歳出予算の補正といたしまして、歳入歳出それぞれ一億八千七百七十九万五千円を追加し、総額九十九億四千四百十九万九千円としようとするものでございます。

歳出予算の追加の主なものとしては、赤字地方バス路線を維持するための補助金として六百二十五万六千円、受診者の増加等による心身障害者児医療費給付扶助費二百六十三万四千円、館山市環境保全公社補助金として四千五百二十六万四千円、

県営は場整備事業に伴う準用河川改修事業の負担金四百十七万三千円、波左間地区の消防詰所用地購入費として三百八十一万三千円、また、将来の公債費負担の軽減と財政運営の円滑化を図るために、高利率の市債についての繰り上げ償還元金等で一億八千三百三十三万四千円、今後の公共事業に供する公共用地取得に備え、土地開発基金繰出金一億三千九百三十六万三千円、これは昭和五十六年度における財産収入のうち、土地売却収入分につきまして繰り出しを行うものでございます。

このほか、普通財産購入費といたしましては、都市計画事業等の代替用地購入費四千九百十四万円の追加をお願いするものでございます。

また、歳出予算の減額といたしましては、コミュニティ施設建設費で千八百十八万四千円、これは実施設計及び入札等による減額でございます。

老人福祉費におきまして老人ホーム収容措置扶助費で六百七十九万八千円、生活保護費の医療扶助費で四千五百二十六万五千円、これはいずれも扶助対象人員等が当初の見込みより減少したことによるものでございます。

農免道路整備事業費で千三百七十九万六千円、これは本年度の国庫補助対象事業費が減額となったことによるものでございます。県営事業負担金につきましては、県営事業費の減少等に伴い、県営漁港整備事業負担金で千四百四十五万円、県道改良事業負担金五百二十五万円、港湾整備事業負担金四百四十五万五千円でございます。

また、船形小学校校舎防音改築事業費で九百二十二万九千円、

船形幼稚園舎防音改築事業費七百八十六万二千元、博物館本館建設事業費で六百九十三万二千元、これらはいずれも入札の結果事業費の減となったもので、これらが減額の主なものでございます。

このほかに、本年度の一般職職員に係る給与改定の実施が見送りになったことに伴い、各款にわたり人件費の減額をお願いするものでございます。

この補正財源につきましては、繰越金及び地方債等で三億二千百四十四万七千円の追加、繰入金及び国庫支出金等で一億三千九百六十五万二千円の減額でございます。

なお、このほかにコミュニティ施設建設費に係る継続費の補正及びコミュニティ施設建設事業はか十六事業について地方債の補正をお願いするものでございます。

次に、議案第二十号昭和五十七年度館山市国民健康保険特別会計補正予算（第二号）でございますが、歳入歳出それぞれ三百五十二万円を減額し、総額二十一億九千二百六万三千円としようとするものでございます。

歳出予算では、人件費の減三百九十一万円と老人保健拠出金が確定いたしましたので千五百二十九万九千円を減額し、療養給付費を同額増額しようとするものでございます。

歳入予算につきましては、五十七年度本算定時におきまして軽減いたしました国民健康保険税三千万円を減額し、国庫負担金につきまして事務費負担金及び過年度分療養給付費等負担金として二千九百三十一万八千円を増額するとともに国庫補助金につきましては、老人医療費の老人保健特別会計への移行に伴い臨時財政

調整交付金を三千二百五十一万円減額し、その他補正財源といたしましては繰越金をもって充てようとするものでございます。

次に、議案第二十一号昭和五十七年度館山市と畜場特別会計補正予算（第一号）でございますが、歳入歳出それぞれ三十二万二千元を減額し、総額九百七十五万円としようとするものでございます。

次に、議案第二十二号昭和五十七年度館山市水道事業特別会計補正予算（第三号）でございますが、収益的支出の予定額を二百九十五万六千円減額し、総額五億五千二百七十八千円に、資本的収入の予定額を四十一万七千円減額し、総額一億千六百三十二万九千円に、資本的支出の予定額を十六万四千円減額し、総額一億四千四百六十二万六千円にしようとするもので、主なものといましては人件費の減額でございます。

次に、議案第二十三号昭和五十七年度館山市国民宿舍事業特別会計補正予算（第二号）でございますが、収益的支出の予定額を三十六万円追加し、総額一億九千三百六十万二千円としようとするものでございます。

以上が今回提案いたしました議案の概要でございますが、この際当面する諸問題につきまして報告申し上げます。

まず、道路交通網の整備でございますが、国道一二七号館山バイパスにつきましては、地権者及び関係者の了解のもとに市域内全線の路線測量が既に終わり、用地買収も進みつつありますが、今後積極的に地域住民の理解と協力を得ながら、この事業の促進を国、県に働きかけてまいる所存でございます。

また、関連道路としての国道一二七号バイパス並びに国道への

昇格をみた国道四〇九号及び四一〇号についても、当地方の根幹道路となるものでございますので、県並びに関係市町村とともに整備促進を働きかけてまいります。

内房線複線化につきましては、国鉄の行政改革の問題もあって、非常に厳しい状況になっておりますが、引き続き関係市町村とともにその促進に努力してまいります。

次に、大規模小売店舗の出店問題についてでございますが、五十六年一月以来商業活動調整協議会におきまして慎重な審議が継続されてきたところでございます。しかし、結審に至らぬままに昨年十月委員の任期が満了いたしました。十二月には新しい委員によりまして引き続き審議が行われることになりました。

市といたしましても、国、県とともに特別委員として審議に参画し、消費者の利便と中小小売業者の事業機会の確保及び地域全体の商業の総合的な改善発達が図れるよう慎重に配慮するとともに、市街地整備との調整を図る観点から対処してまいる所存でございます。

以上、私の所信とこのたび提案いたしました案件の概要を説明いたしますとともに、当面の諸問題について報告いたしました。詳細につきましては、御質問に応じ、私または事務担当者からお答えいたしたいと存じます。

なお、この会期中に追加議案として、館山市固定資産評価審査委員会委員の選任について及び人権擁護委員候補者の推薦について、上程をお願いする予定でございます。

よろしく御審議くださるようお願いいたします。ありがとうございました。

○議長（林 豊君） 以上で施政方針並びに各議案の提案理由の説明を終わります。

#### 延 会 午前十時五十四分延会

○議長（林 豊君） お諮りいたします。

本日の会議はこれにて延会いたしたいと思います。これに御異議ありませんか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

○議長（林 豊君） 御異議なしと認めます。よって本日はこれにて延会することに決しました。

なお、明三月五日から九日まで議案調査のため休会、次会は三月十日午前十時開会とし、その議事は通告による行政一般質問を行います。

○本日の会議に付した事件

- 一、会議録署名議員の指名
- 二、会期の決定
- 三、会議日程の決定
- 四、議案第三号乃至議案第二十三号